

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ぼんだの里 1 (まとめ)		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaaku.in/31/index.php?action=keuhyou_detail1_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=3171500394-008&ProfCd=318&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	平成28年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①家族様・主治医の先生・地域の皆様とも連携を密にとり、一人ひとりの思いを大切に安心して最後まで暮らして頂けるよう、毎日の支援に取り組んでいる。
- ②日々のリハビリ体操や歩行・車椅子自操等出来ることは声掛け、励ましながら頑張ってもらえるよう働きかけている。
- ③季節ごとに地域のボランティアの方による演芸会を法人全体で開催し、交流を深めたり地域の行事などに参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・自然豊かな環境の中、利用者はゆったりと過ごしている。
- ・できるだけ最期まで暮らせるよう、医療機関と連携し、ターミナルケアの支援に努めている。
- ・地区自治会と地域福祉の向上及び防災減災を目的とした覚書を交わすなど、地域との協力関係を整えている。
- ・併設する事業所と連携し、合同行事を開催するなど地域交流の機会となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

★ 努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り時、介護理念を唱和し良い支援が出来るよう意思統一をしている。	基本理念および介護理念を、玄関の手作りの作品の近くの目立つところに掲示している。2ユニット合同で毎朝理念を唱和し意思統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方に来て頂いたり、公民館祭り等に作品を出展したり、近隣の他施設等とも交流を行っている。	自治会に加入し共同作業に参加している。地域の公民館祭りに作品を出品したり、運動会等に参加している。地域のボランティアの訪問もあり、歌や踊り等を楽しみにしている。	今後も地域の拠点として、地域の人々と共に活動できる場、憩いの場となることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等に参加し施設の役割等を理解して頂くよう努めている。介護福祉士養成校の実習施設として登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の取り組みを報告し委員の皆様から意見・アドバイスを頂きサービスの向上につながるように努めている。	★併設する事業所合同で行っており、評価結果も報告している。会議では積極的な意見交換があり、サービスの向上につなげている。地区自治会と地域福祉の向上及び防災減災を目的とした覚書を交わす機会となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で入居者様の状況を報告し委員の皆様よりアドバイス・助言等を頂いている。	運営推進会議で報告し助言をもらっている。緊急なことは随時電話で連絡相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室や玄関は夜間以外は施錠はしない。点滴などの実施時にも、固定はしないよう見守りのできる場所で行ったり、家人にも見守り等の協力をお願いしている。	身体拘束をしないケアに努めている。転倒のリスクの高い利用者には、家族の了解を得てセンサーマットを使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、カンファレンス時に伝達講習し、皆で共通の意識としながら日々防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参加した研修会の内容をカンファレンス時に伝達話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族様に施設見学をしてもらっている。不安、疑問点を伺いながら、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様と家族様に参加してもらい意見を頂いている。また、随時ミーティングやカンファレンス等でも話合っている。	運営推進会議や家族会、カンファレンス等で意見、要望を聞いたり、緊急時の対応について確認をしている。家族会を医師の往診日に合わせて開催し、家族が相談しやすい工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、カンファレンス、リーダー会等で意見、提案を聞き反映させている。	管理者は1年に1回個人面談を行い、職員の意見を聞いている。また、各ユニットで話し合った意見や提案を受け、できることはすぐ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会参加、資格取得等のバックアップ、資格手当、労働条件等考慮させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加を年間計画に添って実施。カンファレンス時に報告し、職員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの相互研修や近隣の施設との交流会などを行っている。外部講師を招いて内部研修を計画し実施している。また、他施設の職員と一緒に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や思いを聞き、職員間で話し合い安心して生活して頂けるよう、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・ご家族の思いをお聞きしながら出来るだけ希望が実現できるよう支援している。信頼関係が早期に築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で話し合い、主治医の意見・助言を頂きながら本人・家族様の要望に添うよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来る事を見極め、本人の役割として一緒に楽しく出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時など、暮らしの出来事や状態をお話している。いつでも気軽に来やすい雰囲気となるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から昔の話を聞いたり、また 家族様からもお聞きしたりし、普段の会話の中で少しでも思いだして頂けるよう努めている。	併設する小規模多機能事業所やデイサービスの利用者などと交流し、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。重度化に伴い、馴染みの場所へ出かける機会が減ってきている。	家族等の協力を得ながら、さらに馴染みの場所へ出かける機会を増やしてはどうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にレクリエーションを行ったり、お手伝いをして頂く中で会話の仲立ちを行い、お互いに良好な関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、電話で様子をお聞きしたり訪問に行ったりし家族様に現在の様子をお聞きするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを日々の生活の中で確認しながら暮らし方や楽しみ等を大切にしている。困難な場合は表情や行動で把握するように努めている。	一人ひとりの思いや意向を日常の様子から職員間で話し合い、把握に努めている。毎月家族へ普段の様子を手紙で伝え、確認を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活状況や利用しておられたサービス等の情報を家族様にお聞きし、本人にとって生活しやすい環境となるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に合った充実した生活と活動が行えるよう、日頃より生活状況と体調等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送りや、毎月または必要時に行うカンファレンスで意見交換を行い、家族様にケアの内容を説明している。また、状態の変化等あった時は主治医・職員間で連携を密に行い早めの対応がとれるよう努めている。	カンファレンスにはほぼすべての職員が参加し、往診記録を元に主治医の意見も取り入れながら介護計画を作成している。日々の記録の記載方法を工夫し、介護計画に反映するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有ができ統一したケアが実践できるよう、個別の記録や連絡ノート等いつでも閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様と連携・協力しながら、緊急時の入退院等の付添いや日々の通院など柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の消防署の協力を得て総合防災訓練や救急蘇生法講習を行っている。また、ボランティアの方に歌や踊りなどに来て頂いたり、運動会にも参加し地域の方と一緒に楽しむ事が出来るよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期往診で主治医の診察を受けている。家族様が往診に同席される機会も設定している。	★かかりつけ医が記載する往診記録で情報の共有を図り、協力関係を築いている。また歯科往診も定期的に行っており、適切な受診支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様一人ひとりの情報や気づきを常に話し合い看護職に報告、適切な支援が出来るよう努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族様との情報交換・相談など、連携を密にとり早期に退院できるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方につき、本人、ご家族の要望を尊重し職員での話し合いを重ね協力医療機関とも連携を密に取りながら、出来るだけ最後まで安心して暮らして頂ける様支援している。	★「重度化した場合における対応の指針」「看取りに関する指針」に沿って、家族や医療機関と連携し、できるだけ最期まで暮らせるよう支援している。また、ターミナルケア研修を行い、職員の精神的負担の軽減にも努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を頂きながら施設内で定期的に救急蘇生法の講習会を開催している。事故発生時の連絡・マニュアル等を常に確認しながら協力医療機関・看護職との連携を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で定期的に総合避難訓練を実施している。地区自治会と地域福祉の向上及び防災減災を目的とした覚書を交わしている。	定期的に消火栓などを用いた火災避難訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。地域の指定避難場所となっており、およそ三日分の備蓄品がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーを大切にし、言動に配慮した支援となるよう心がけている。	言葉かけには配慮して対応しているが、時には慣れ合いの言動になることはある。	職員間で言葉かけについて振り返ってみたいかどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、入居者様との会話の中で本人の思いや希望が表現できるよう声掛け傾聴しながら、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のペースを大切にし、思いや希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理容サービスを利用している。日々の身だしなみに配慮し気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気持ち良く食べて頂けるよう、一人ひとりの状態に合わせた形態を提供し必要に応じて支援しながら一緒に食事を楽しんでいる。	併設する事業所で状態に合わせた形態で調理し、さらに各ユニットで一人ひとりに合わせ器を換えるなどし提供している。季節の野菜を使ったり、誕生会では赤飯や茶碗蒸しなどを提供し、利用者は楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量が分かるよう毎日チェック表を付けている。目標の水分量が飲めるよう好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る部分は声掛けにより自らして頂き、磨き残しがないよう確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンとチェック表を確認しながら排泄案内を行っている。	重度化に伴い、夜間は紙おむつを使用する利用者が多くなっているが、日中は排泄パターンや様子を確認しながら、トイレでの排泄を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・排便チェックを確認し、毎日、体操・歩行・立位保持・立ち上がり等の運動に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調と気分に合わせながら入浴を楽しんで頂けるよう日々支援している。	個浴と特殊浴槽を備えており、体調を見ながら入浴支援を行っている。夜間等、個別に入浴等を希望する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、午睡してもらったり・共有スペースで過ごしてもらったりしている。日々生活リズムを整えながら安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援前にはチェック表と薬の内容・入居者様の名前を声に出して確認している。薬や内容量等が変更になった場合は状態の変化が見られないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割・楽しみを提供し穏やかに喜びのある生活が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を肌で感じて頂くよう努めている。希望により地域の運動会などに参加している。	利用者の重度化が進み、日常的な外出や散歩等は少なくなっているが、車いすでもできる限り外出できないか検討している。	近隣は自然が多く、その環境を活かした支援を取り入れてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っているが入居者の方の希望により買物が必要な時、また、受診など必要とされる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月お手紙により状況のお知らせを行っている。入居者様の家族様からの電話の取次ぎ等も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に安心して、落ち着いて過ごして頂くよう 家族様の写真を居室内に飾ったり、共有スペース内には作ってもらった作品や生け花・手作りカレンダー等を飾り付ける等し、落ち着いて過ごして頂くよう支援している。	玄関やホールには職員と利用者が一緒に作成したカレンダーや貼り絵、花、写真等が飾ってある。利用者はテレビを見たりして、落ち着いて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくり過ごして頂いたり、巡回図書で借りられた本を読んで頂いたり、パズルなど楽しんで頂いたり、思い思い自由に過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の写真等を置いたり、自作のカレンダーなどを飾られた、使い慣れた家具を持参されたりと部屋全体が落ち着いて安心して過ごせるよう支援している。	居室の扉や居室内に家族の写真や自分の作品等が飾ってある。扉には名札もかかり自分の家のような、落ち着ける雰囲気になっている。家族の訪問宿泊時には布団が敷けるスペースが確保してある。	中にはベッド周囲が殺風景な部屋もあり、家庭的な雰囲気になるよう工夫してみてもどうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じ出来る事をして頂き、出来ない部分は職員とともに出来るよう配慮しながら支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里 2		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	平成28年1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地
訪問調査日	平成28年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者様と職員ともに笑顔が絶えない、アットホームな雰囲気作りに配慮している。 ②家族様に何時でも気軽に面会に来て頂いたり、宿泊して頂けるようにしている。 ③職員が活き活きと働けるように、個々の能力・知識向上のため、研修会への参加、近隣施設との交流会など行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り時、介護理念を唱和し良い支援が出来るよう意思統一をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方に来て頂いたり、地域の運動会へ参加と公民館祭り等に作品を出展。近隣の他施設等とも交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動に参加し、老人福祉の理解を得られるよう努めている。また、実習生の受け入れを行い、福祉活動の一端を担うよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業活動報告を詳細に行っている。特に力を入れていること、入居者様の対応、ひやりハット・事故等も細かく報告している。会議で頂いた意見等は、活動やサービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に入居者様の生活の様子を報告している。変化のある時には随時行っている。また、食事内容を町の管理栄養士さんに報告し摂取カロリーを含めたアドバイスを頂き、入居者様の健康管理に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室や玄関は夜間以外は施錠はしない。点滴などの実施時にも、固定はしないよう見守りのできる場所で行ったり、家人にも見守り等の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、カンファレンス時に伝達講習し、皆で共通の意識としながら日々防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加しカンファレンス時の伝達講習を通して職員の理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には家族様に施設見学をしてもらっている。不安、疑問点を伺いながら、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様と家族様に参加してもらい意見を頂いている。また、随時ミーティングやカンファレンス等でも話合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会・カンファレンスを毎月行い意見交換や提案ができる機会を設けている。また、必要な場合は随時カンファレンスを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会参加、資格取得等のバックアップ、資格手当、労働条件等考慮させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加を年間計画に添って実施。カンファレンス時に報告し、職員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの相互研修や近隣の施設との交流会などを行っている。外部講師を招いて内部研修を計画し実施している。また、他施設の職員と一緒に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを出来るだけ詳しくお聞きしながら、思いを汲み取り、安心して頂けるような関係となるよう日々努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前からご家族の要望・思い等をお聞きし、その思いを出来るだけ受け入れながら良い関係となるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で話し合い、主治医の意見・助言を頂きながら本人・家族様の要望に添うよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除をお願いしたり、洗濯物をたたんで頂いたり、食事のコンテナを運んで頂いたり、できる事はお手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時など、暮らしの出来事や状態をお話している。いつでも気軽に来やすい雰囲気となるように努めている。本人とご家族様の絆を大切にしていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣ユニットの知人や近隣の方の面会時など、いつでも気軽に来て頂けるような楽しい場の雰囲気になるような支援を心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが居心地よく過ごして頂けるよう、日頃の関わりの中で必要により職員が仲立ちを行い、孤立されないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、電話で様子をお聞きしたり訪問に行ったりし家族様に現在の様子をお聞きするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを日々の生活の中で確認しながら暮らし方や楽しみ等を大切にしている。困難な場合は表情や行動で把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活状況や利用しておられたサービス等の情報を家族様にお聞きし、本人にとって生活しやすい環境となるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に合った充実した生活と活動が行えるよう、日頃より生活状況と体調等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送りや、毎月または必要時に行うカンファレンスで意見交換を行い、家族様にケアの内容を説明している。また、状態の変化等あった時は主治医・職員間で連携を密に行い早めの対応がとれるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有ができ統一したケアが実践できるよう、個別の記録や連絡ノート等いつでも閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様と連携・協力しながら、緊急時の入退院等の付添いや日々の通院など柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防者に協力により避難訓練や消火訓練を地域の方にも参加頂き行っている。また、行事等でボランティアの方々に来て頂いたり、地域の文化祭等に日頃の生活の中で作った作品を出展したりし、地域の方々との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族様の希望を尊重し承諾を得て医療機関への受診支援を行っている。協力医院に月一回の往診と必要時には随時対応を行って頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の施設・ユニット毎に看護師を配置しており、相談・助言等の連携を図っている。必要時には協力医院との連携を図りながら支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療に専念し早期に退院できるように、医療機関・ご家族様と連携を図りながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族様の希望を尊重し、協力医院からも助言を頂きながら、事業所で出来る事を十分に説明し理解して頂いたうえで、方針を決め支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段から看護職との連携を図り急変時・事故発生時のマニュアルを常に意識している。また、消防署の協力で救急蘇生法の講習を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の自治会と地域福祉の向上及び防災・減災を目的とした覚書を交わし、消防署の協力で総合避難訓練を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーを大切にし、言動に配慮した支援となるよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、入居者様との会話の中で本人の思いや希望が表現できるよう声掛け傾聴しながら、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を大切にし、どのように過ごしたいのか確認しながら、自分のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい季節に合った服装や身だしなみができるよう支援している。月一回の訪問理容サービスを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気持ち良く食べて頂けるよう、一人ひとりの状態に合わせた形態を提供し必要に応じて支援しながら一緒に食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量が分かるよう毎日チェック表を付けている。目標の水分量が飲めるよう好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせ見守り、声掛け、介助等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣に合わせてトイレでの排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせてリハビリ体操や廊下歩行などで身体を動かし、自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望、体調を考慮しながら入浴を楽しんで頂くよう支援している。入浴日は一応決めてはいるが、希望や体調などによりいつでも入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いにテレビ・読書等、自分のペースで過ごしてもらい、その時々状況に合わせてさりげなく日中の活動も促し生活に張りができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し服薬時には確実に飲んでもらうため、名前・日時・を読み上げ確認し服薬してもらっている。症状に変化がある場合は主治医に相談し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割・楽しみを提供し穏やかに喜びのある生活が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望と一人ひとりの状態を把握し、気分転換が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っているが入居者の方の希望により買物が必要な時、また、受診など必要とされる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月お手紙により状況のお知らせを行っている。入居者様の家族様からの電話の取次ぎ等も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に安心して、落ち着いて過ごして頂くよう 家族様の写真を居室内に飾ったり、共有スペース内には作ってもらった作品や生け花・手作りカレンダー等を飾り付ける等し、落ち着いて過ごして頂くよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で一人であったり、気の合った者同士で思い思いに自由に過ごせるよう居場所の工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の写真等を置いたり、自作のカレンダーなどを飾られた、使い慣れた家具を持参されたりと部屋全体が落ち着いて安心して過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じ出来る事をして頂き、出来ない部分は職員とともに出来るよう配慮しながら支援を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	声掛けには入居者様のプライドに配慮し声掛けを行うように心がけているが、時には慣れ合いの言動になることがある。	尊敬の念を常に意識した言葉かけと行動がとれる。	①疑問に思った支援はミーティング・カンファレンス等で振り返り、全員で問題の改善を図る。 ②自己の振り返りを実施する。	12ヶ月
2	49	重度化が進み、日常的な外出支援が難しい状況もあるが、少しでも個々の希望にそった支援を実行したい。	一人ひとりが楽しみとすることの出来る外出の機会を作り支援する。	①希望や思いを汲み取り、日々の散歩・地域の馴染みの場所・行事等に参加ができるよう計画し実行する。 ②参加しやすい雰囲気作りと誘い掛けの声掛けなどには言葉を工夫する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。